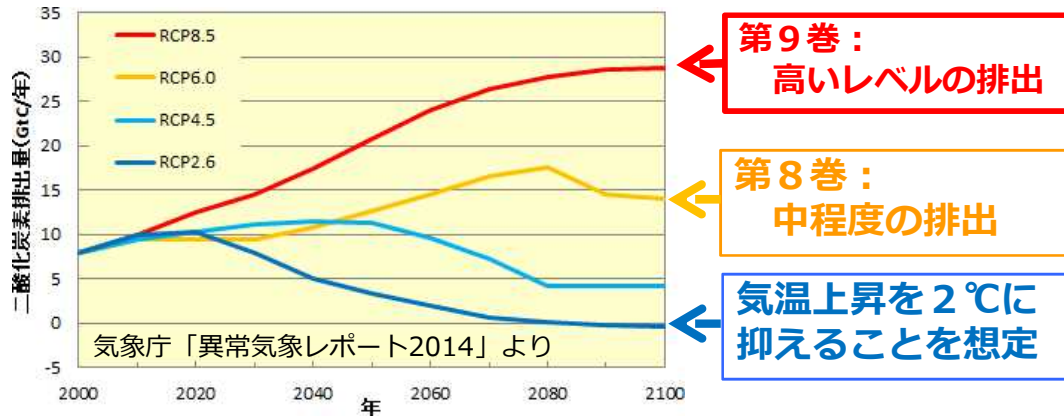


21世紀末の気候の予測について



二酸化炭素など温室効果ガスの排出削減対策が今後ほとんど進まず、地球温暖化が最も進行する場合を想定して21世紀末の日本の気候を予測した結果を掲載しています。

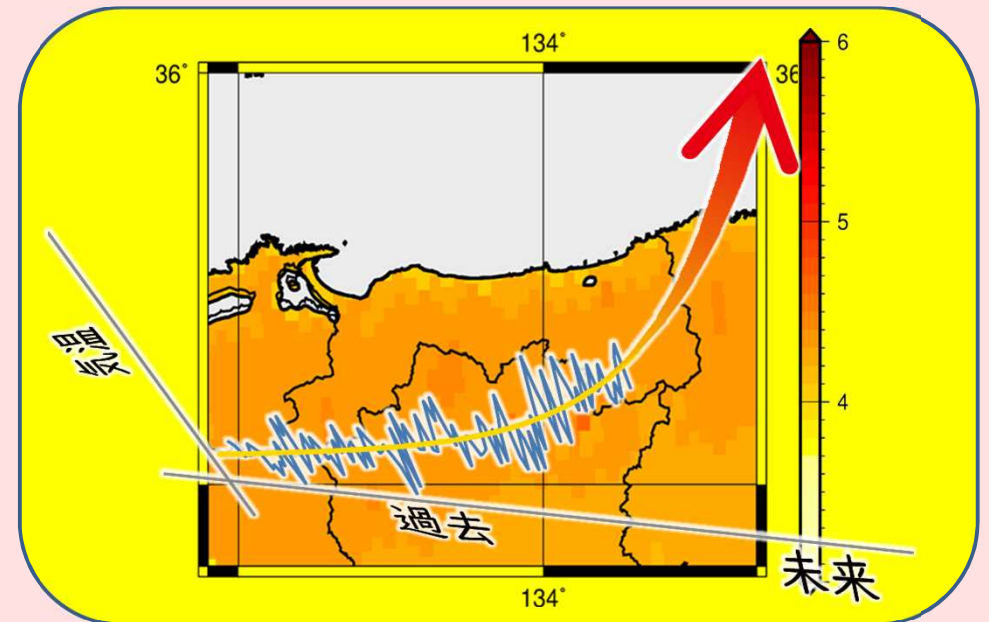
予測に際しては、国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」が2013年に公表した第5次評価報告書で採用した4つの温室効果ガス排出シナリオの中で最も排出量の多い「RCP8.5シナリオ」(図中の赤線)に基づいて、気候予測モデルを用いたコンピュータシミュレーションを実施しました。

将来気候・現在気候・平年値について

将来気候	気候予測モデルによる21世紀末(2076~2095年)における気候の予測結果です。
現在気候	気候予測モデルが再現した20世紀末(1980~1999年)の気候です。実際の観測に基づく値とは異なります。
平年値	1981~2010年までの平均値で、実際の観測に基づく値です。

鳥取県の21世紀末の気候

地球温暖化が最も進行する場合の
気温や降水の予測



鳥取県の気候変動に関する情報(鳥取県版)

<https://www.jma-net.go.jp/hirosshima/ondanka.html>



地球温暖化予測情報第9巻(全国版)

<https://www.data.jma.go.jp/cpinfo/GWP/index.html>



鳥取地方気象台

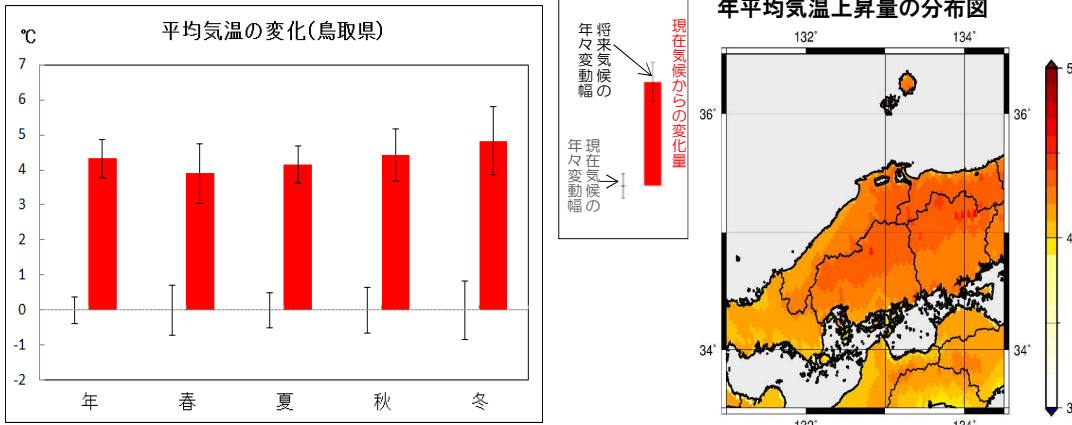
(二次元コード)

地球温暖化が最も進行する場合の

気温の予測

▷鳥取県では年平均気温が100年で約4℃上昇

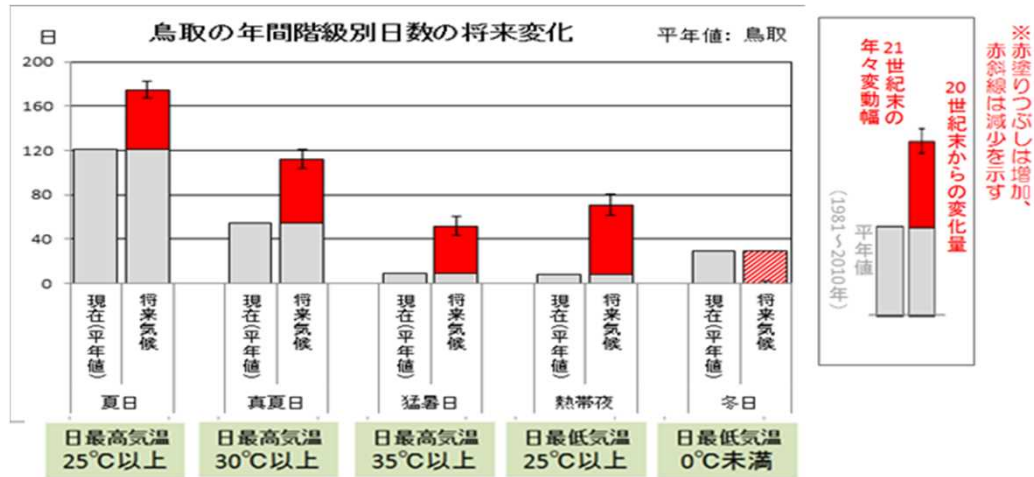
※鳥取市における年平均気温の長期変化傾向は100年あたり1.8℃の上昇(計算期間:1943~2017年)



鳥取の年平均気温は現在の種子島(鹿児島県)とほぼ同様になります。

現在の年平均気温の平年値 鳥取:14.9℃ 種子島:19.6℃

▷鳥取では猛暑日が100年で年間40日程度増加

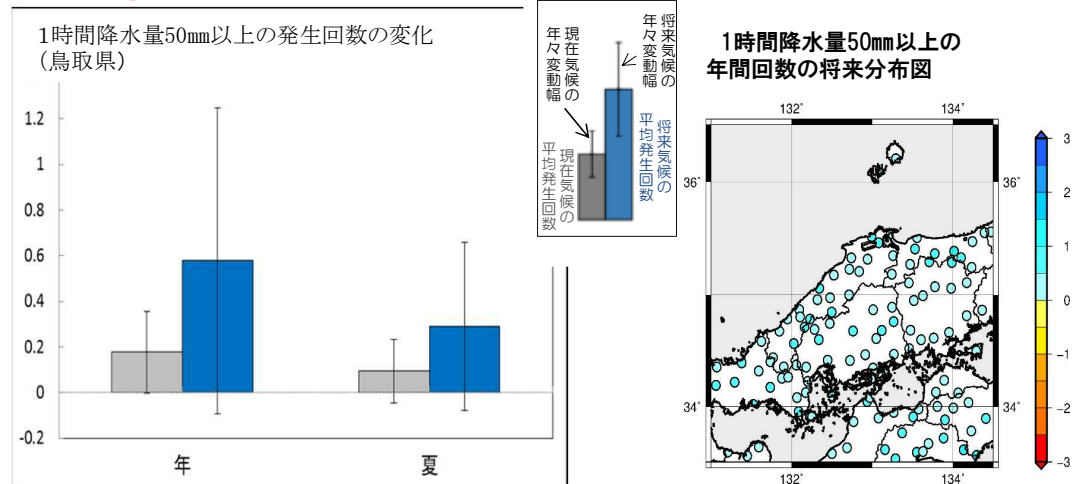


真夏日・夏日・熱帯夜はいずれも50日以上増加します。

地球温暖化が最も進行する場合の

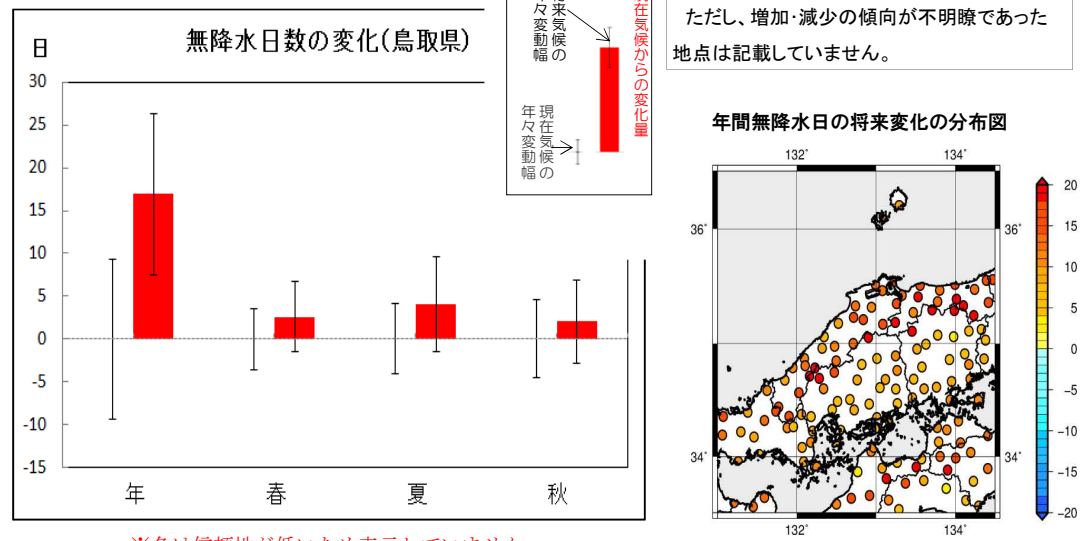
雨の予測

▷1時間降水量50mm以上の発生回数が100年で3倍以上に



※春は20世紀末の再現実験で発生が無く、また、21世紀末においてほとんど発生が予測されていないため、秋は予測に一致した傾向がみられないため、冬は発生回数が少ないため表示していません。

▷無降水日数も増加



上下の図は、年間の1時間降水量50mm以上の発生回数と無降水日の将来変化(将来気候と現在気候の差)のアメダス地点ごとの予測です。ただし、増加・減少の傾向が不明瞭であった地点は記載していません。

※冬は信頼性が低いため表示していません。
 <注意>分布図については、地点別の変化傾向に着目せず、県の平均的な変化傾向を捉えるようにしてください。